

令和 2 年度
ケアハウス 鶴翠苑
事業報告書

(1) 基本方針

「喜ぶ」「怒る」「悲しむ」「楽しむ」の感情を日常生活で自由に表現できる生活の場を作ります。

(運営方針)

- ① ご利用者の人権を尊重し、自分らしく笑顔あふれる生活を送っていただくことを目指し支援を行います。
- ② ご利用者一人ひとりのことをよく知り、個々に合った支援を行います。
- ③ 自立した生活を継続することができるように介護、看護、機能訓練等の専門スタッフのチームケアによる充実したサービスの提供を行います。

(重点目標)

- ① 介護支援 専門員がご利用者の日常に深く関わり、観察、会話等の中から本人の思いを知り、個々のプランの充実に努めました。他職種との情報交換、連携を密に行い、月に1回の担当者会議では、介護員から事前に情報を収集し、介護支援専門員を中心に看護師、機能訓練指導員との他職種協働によりご利用者の生活の質の向上について意見交換を行い、ケアの質の向上に繋げています。

午前中の体操、午後からのレクリエーションでは、楽しみながら実施することを目指し、参加を募らなくても、笑い声、歓声があると「何か、楽しそう…」と集まって来て頂けることを目標に取り組みました。その時間には、職員全員がその場に集まり、場を盛り上げ、皆様の笑顔を引き出せるよう努めました。レクリエーションについては、午前中の健康体操から午後の集団レクリエーションへの流れを重視して、「毎日の生活の中で笑いのひと時とその日の達成感を味わう」をテーマに取り組みました。

絵手紙クラブや習字クラブなども定期で開催し、好きなクラブに参加して頂ける様、そしてご利用者自身に選択して頂ける様にしています。おやつイベントでは、入居者、職員の共同作業で貴重なコミュニケーションを図る大変有意義な時間となっております。「タコ焼き」「クリームソーダ」「カステラ」「どら焼き」「大学芋」「新年の抹茶会」など介護員が担当制で毎月違う職員が考え、日々のコミュニケーションの中で入居者の皆様が食べたいもののお話からもヒントを得て、実現に結び付けるように努力しました。入居者の皆さんが体を動かす楽しみと食べる楽しみの時間を有意義に過ごされ、それを共有しながら日々の生活が充実したものになるように取り組むことができました。これからもコミュニケーションを重視し、ご利用者に、「喜怒哀楽」の感情を自由に表現できる環境づくりに努めます。

- ② 午前、午後のバイタルチェック、室温、湿度チェックを毎日行うことでご利用者の異変の早期発見、生活環境への配慮を実施することができました。看護師が、ご利用者一人に一日2回は関わることで、体調の異変への気付きやご利用者の安心に繋がって

います。また、入浴時の皮膚チェックにより、ご利用者の小さな異変に疑問を持ち、看護師に報告することで、細かな気づきが、重症化や長期入院を防ぐことに繋がることを認識し、コロナ禍での感染症予防に効果を発揮することができました。外出の機会が減ったこともあり、ご利用者のADLの維持、向上のために新しく脳トレやレクリエーションを工夫し、機能訓練に繋がるよう取り組みました。日中の体調不良者については、ご家族への連絡を迅速に行い、受診への協力を頂き、状態の悪化を防ぐことが出来、夜間の救急搬送の事例もなく、ご利用者に不安のない生活の提供を行うことが出来ました。職員自身が、感染症予防の意識を強く持ち、予防行動の実践を習慣とし、1ケア1手洗い等、従来衛生面への取り組みを強化することにより、「感染症を持ち込まない、拡げない」の実践を継続しております。

- ③ 『ケアハウスでの生活においてご利用者及びご家族のニーズを考え、情報を共有し、ご利用者とご家族との思い出作りに寄与する職員の育成を図り、充実したサービスの提供を行います。更には、地域との交流を深めることでケアハウスの広報活動に努め、地域資源の活用にも努めます』については、今年度は、コロナ禍により、従来ケアハウスが行ってきた地域に向けての活動が制限され、広報活動等の計画通りに実施することが出来ませんでした。ご家族の中には、「イベントに参加できないので残念です。」と言われる方も多く、ご家族や地域資源の活用、共存の重要性を再認識する機会となりました。行事へのご家族の参加は叶いませんでしたが、感染対策を実施し、夏祭り、秋祭りは、同一敷地内のグループホームのご利用者、職員とボランティアの学生に参加して頂きました。また、地元で信頼され、地域密着を実践するためにケアハウスとして出来ることは、まだまだ有ると思います。様々な視点からのアプローチを行い、広報活動、地域資源の活用にも努めます。

(2) ご利用者に対するサービス

● 食事

ご利用者の皆様の楽しみのひとつである「食べること」については、食事やおやつへのご意見等が、ご利用者の求める食事やおやつの改善に反映されるよう、管理栄養士及び職員全員でご意見、ご感想の収集に努めました。また、食事についての意見を聞く為の、意見箱を施設に設けており、毎月の給食会議の際に、収集したご利用者の声や検食を担当した職員の意見を厨房や管理栄養士に伝えることで、ご利用者の咀嚼状況及び嗜好に配慮した食事を提供することができるよう取り組みました。様々な改善等により、ご利用者からは、「此处のご飯は美味しい。」との感想を今年度もいただくことができました。引き続き、情報収集を行い、ご利用者の意見がより多く取り入れられ、「食への楽しみ」を感じて頂けるよう努めます。おやつイベントでは、季節の食材を使用して季節感のあるおやつが提供できていると思います。手の込んだ物ではありませんが、自分で作ることの達成感、作ったものを味わう満足感を感じていただけています。手先を使うこと、匂いを嗅ぐことで脳の活性化を図り、日常が豊かになり、ご利用者にとっての生きる力に繋がるよう支援します。

- 入浴

週 2 回入浴を行い、体調不良等で入浴のできない方に対しては、清拭を行いました。身体状況に応じて、シャワーキャリーを活用し、普通浴槽での入浴が困難な方に対しては、機械浴槽（リフト浴）を使用する等の工夫により、快適な入浴の時間を過ごして頂けるよう支援を行いました。ケアプランの見直しを行う際に ADL の低下が見られる方については、入浴形態の見直しを行い、入浴が疲れを生むことがないように、また、入浴を楽しみの一つとして感じて頂けるよう努めました。高齢者の介護施設では、入浴時の事故は、高齢者の死亡に繋がる危険性が高く、安全に安心して入浴して頂けるよう担当する職員が、緊張感を持ちながらも、ご利用者にはリラックスしていただける時間の提供を行うことを共通認識として、事故防止に注意を払い、入浴のお手伝いをすることで入浴時の事故は発生しておりません。また、入浴時が一番入居者の皮膚状態の観察ができる機会なので、最大限に活用し、健康管理の情報収集の場としております。

- 排泄の介助

トイレでの排泄＝自立という概念のもと、ケアハウスでの生活において排泄時はトイレを使用することを基本としてケアを継続しました。日課としている健康体操への参加や状態に応じた歩行訓練、水分摂取等を行うことで、体を動かし、腸内の活動を良くするような取り組みを行いました。結果、残存能力を維持することにより、ご利用者全員が、トイレでの排泄を継続できております。また、一人でトイレを使用することが難しいご利用者については、職員が介助を行い、気持ち良く排泄をすることができるようなケアを継続しております。排泄面での衰えが、ケアハウスでの生活の継続が困難になる一番の原因となる為、今後も力を入れ支援を行います。緩下剤の服用者への水分摂取への意識付けを目的とした声掛けの実践により、ご利用者はもとより、職員の薬に関する知識を増やすことにも繋がっており、円滑な排便コントロールが行えております。

- 健康管理

看護職員は常にご利用者の健康状態に注意を払い、健康管理に努めました。また、緊急時には、主治医あるいは協力医療機関等と連携を図り早期対応に努めました。

また、介護職員も、日々のご利用者との関わりの中で、いつもと違う変化に気付き、看護職員との情報共有を行うことを習慣とし、異常の早期発見に努めてきました。長期入院となった方は、一度退居し、しっかりと治療をして、病状が改善、安定し、退院された後には、再入居についてもご家族と相談をしますが、事業所の連携により、亀天会に関わったご利用者には、最後まで亀天会をご利用いただく方針を実践しております。

- 機能訓練

入居者一人一人の身体状況を把握し、機能訓練指導員により個別の機能

訓練計画を立て、計画に基づいて個々に合った訓練を実施しました。内容としては、日常生活を送るのに必要な機能の回復又はその減退を防止するための機能訓練を実施しました。また、毎日の健康体操、歩行訓練、車椅子を使用している方の自走訓練、月に何度かの平行棒や階段を使用している歩行訓練や従来のレクリエーションだけでなく、毎月新しいレクリエーションを取り入れ、その取り組みを介護職員、看護師、機能訓練指導員が振り返りを行い、下肢筋力の維持、低下の予防に努めてきました。また、プリント問題等(計算・漢字)をすることで、脳の活性化を図っています。毎日の生活がリハビリと考え、自分の事は自分で出来る大切さを伝えながら、前向きに取り組んで頂けるように声かけを行っています。

- 相談および援助

ご利用者およびそのご家族からのいかなる相談についても誠意をもって応じ、可能な限り必要な援助を行うよう努めました。今後もどんなケースでも早期対応を行い、日頃からご家族との連絡を密にし、連絡に関しても、担当者を相談員とケアマネに限定し、ご家族が誰に相談すれば良いかを明確にすることで、信頼関係の構築に努めました。今年度は新型コロナウイルス感染症予防の為、面会等を遠慮して頂いていました。ご家族に連絡をする際には、ご利用者の近況等ご様子をお伝えしております。また、ズームでの面会を実施し、ご利用者とご家族の精神面へのサポートに力を入れ、新型コロナウイルス感染症終息後には、ケアハウスでの生活だからできる外出や小旅行等のご家族の交流にも関わり、ケアハウスならではの相談業務に取り組んでいきます。

- レクリエーション

施設の年間計画に沿ったレクリエーション行事を企画し、実施しました。観桜会、ドライブ、誕生会、カラオケ、敬老会、クリスマス会、買い物、絵手紙クラブ、習字クラブ等、入居者に楽しんでいただけるよう工夫をし、ご利用者が日々の生活に楽しみを感じながら生活できる環境の提供をテーマとして取り組みました。また、月ごとにレクリエーション予定表を作成し、日替わりのレクリエーションを行い、手足を使用したゲームや頭の体操としてプリント問題等、脳の活性化を目的とした様々な取り組みを行いました。おやつイベントも担当者を毎月変え、職員ならではの発想や日々の関わりから得た情報をもとに、ご利用者の要望に応えることが出来るようメニューも増やし、季節を感じてもらえる題材を考え、「選ぶ」「見る」「作る」「食べる」という、様々な楽しみを味わって頂いています。

- 防火・防災対策

「ケアハウス鶴翠苑・グループホーム鶴翠 消防計画」を基本として、年2回夜間を想定した避難訓練を、ご利用者の方も参加して実施しました。避難訓練後は、消防職員指導のもと、「早く、安全に避難する」に着目した訓練の重要性についての指導もあり、防災に関する知識を深めることがで

きました。今後発生が予想される東南海地震等の災害への対応をしっかりと行うことができるよう、また、安全に入居者の皆様を避難誘導できるよう、日頃から防火、防災対策への強い意識を持ち、ケアの継続を行います。訓練では、防火・防災だけではなく、不審者等への対応について、法人の顧問の防犯に関する講義や職員が不審者役となり、実際に施設内に侵入された時を想定し、職員がどう動くべきかについても情報の共有を行いました。ケアハウスが、地域の方に気軽に利用して頂ける避難場所となるよう地域密着を目指します。

- 職員研修

毎月、内部研修を行い、職員全員で介護に関する知識や技術の向上を目指し、研修内容についてグループワークを行い、職員自ら考え、ケアについて決める習慣をつけることができる取り組みを継続しております。結果、職員会議等で発言したことが、実際のケアに活かされることを体感する機会を得ることが出来、そのことが、職員の積極性にも繋がる良い結果を生んでおります。自分たちで決めたケアについては、しっかりと継続できるのが介護の現場であり、ご利用者への尊厳を忘れず、良い支援を行うことを常に考える職員が育っております。予定しておりました外部研修への参加は、十分とは言えないため、来年度は、内部研修の充実と外部研修を活用することで、自ら考え、行動できる職員の育成に役立てます。

- 職員

離職者が出ない職場環境への取り組みを継続しております。職員の指導に関して、職員を二つの班に分けて業務に当たっており、各班長が、職員の話をしっかり聴くことに力を入れて取り組みました。また、班長だけでなく、管理部門の役職者も職員との面談を行い、職員の思いや目標を一緒に考え、事業所として進んでいる方向について、伝えることに重点を置き、「丁寧な言葉遣い」「礼儀正しい対応」について指導を行いました。外国人技能実習生の受け入れも今年度で4名となり、真面目に取り組む姿勢へのご利用者からの評価も高く、仕事を覚えようとする意欲もあり、「丁寧な言葉遣い」「礼儀正しい対応」について日本人の職員に良い刺激を与えてもらっています。1期生、2期生、3期生、4期生共に良い実習生を受け入れることができおり、しっかりと介護について学んでもらえる環境作りを継続して行います。今後も事務所、看護、介護の3部門それぞれが協力することと各部門の責任者が、情報共有を行い、信頼される事業所の運営について考え、取り組んで参ります。

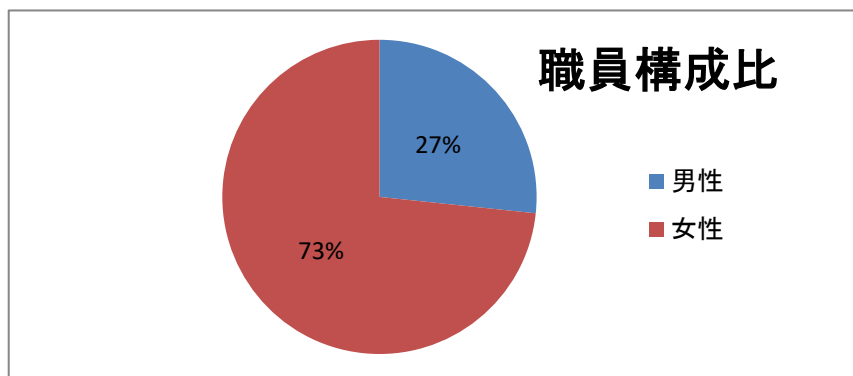


1. 事業所

① 概要

事業所名	ケアハウス鶴翠苑		
事業所種別	(介護予防)特定施設入居者生活介護		
事業所住所	西条市大野248番地1		
管理者職名	施設長 渡邊 樹義		
職員数	男性	女性	総数
	8	22	30

(令和3年3月31日現在)



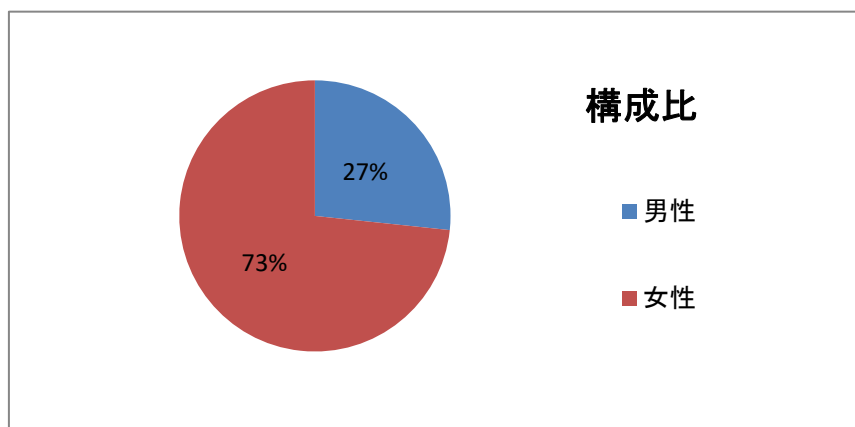
②職員紹介

ケアハウス鶴翠苑の職員は、施設長1名、生活相談員1名、介護支援専門員1名、機能訓練指導員1名、看護師2名、介護員14名、事務員1名で構成されています。また、外国人技能実習生を4名受け入れています。

有資格者は介護支援専門員が2名、介護福祉士が6名、准看護師が3名となっており、各職種が連携し、利用者が安心して生活できるよう施設運営に努めております。

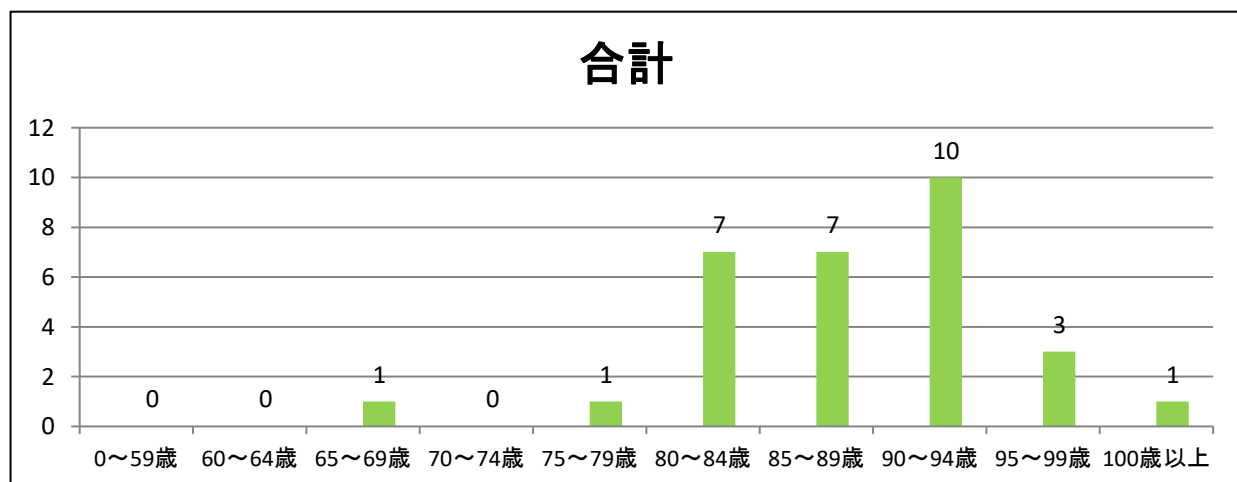
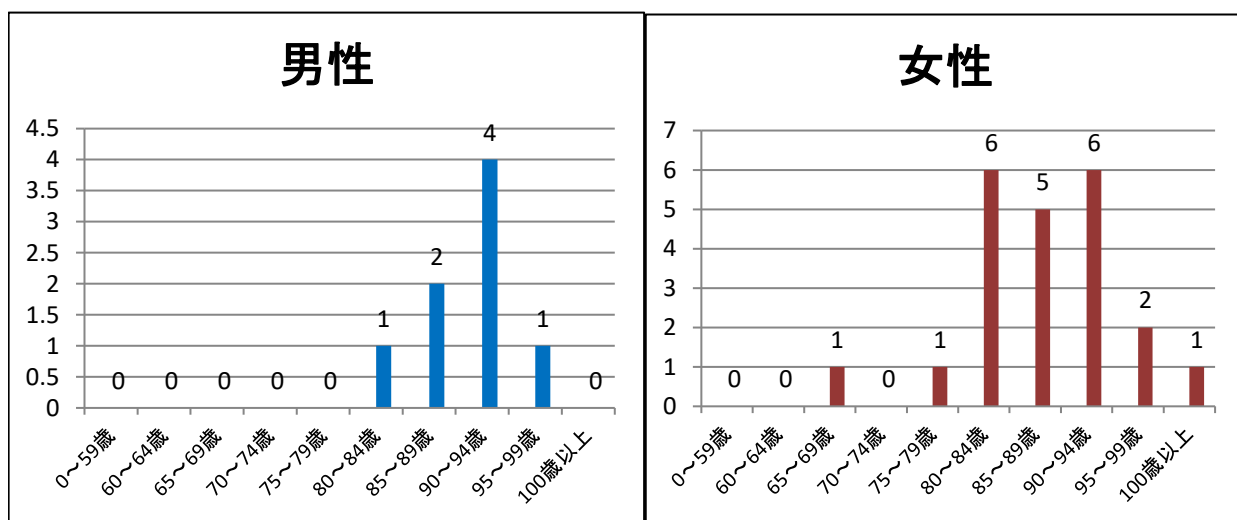
2. 定員及び現在人員(令和3年3月31日現在)

定員(名)	現在人員(名)	性別	
		男性	女性
30	30	8	22



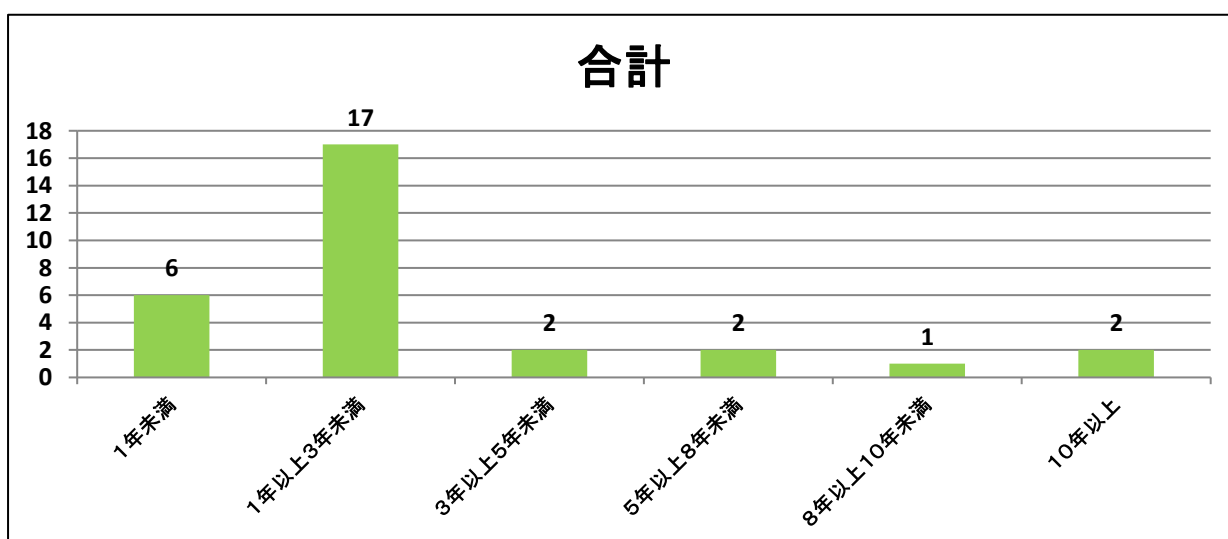
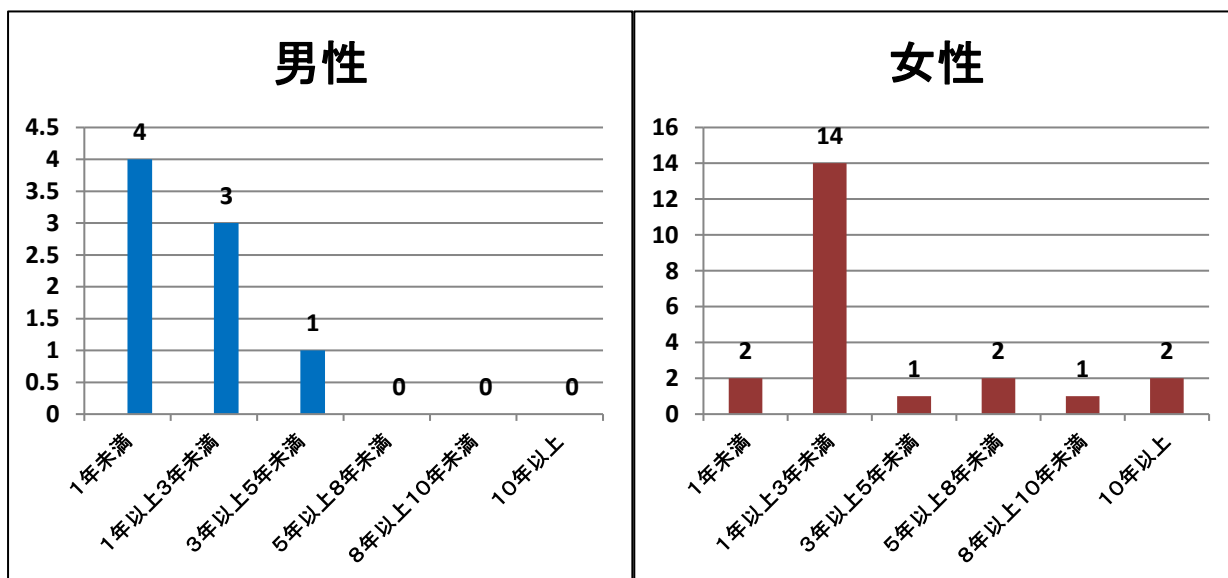
2. 年齢別人員

	男性	女性	合計人数と構成比	
			人数(名)	構成比(%)
0～59歳	0	0	0	0%
60～64歳	0	0	0	0%
65～69歳	0	1	1	3%
70～74歳	0	0	0	0%
75～79歳	0	1	1	3.33%
80～84歳	1	6	7	23.33%
85～89歳	2	5	7	23.33%
90～94歳	4	6	10	33.33%
95～99歳	1	2	3	10.00%
100歳以上	0	1	1	3%
合計	8	22	30	100%
	最高年齢	最低年齢	平均年齢	男女平均年齢
男性	96	81	89.75	
女性	102	69	87.73	



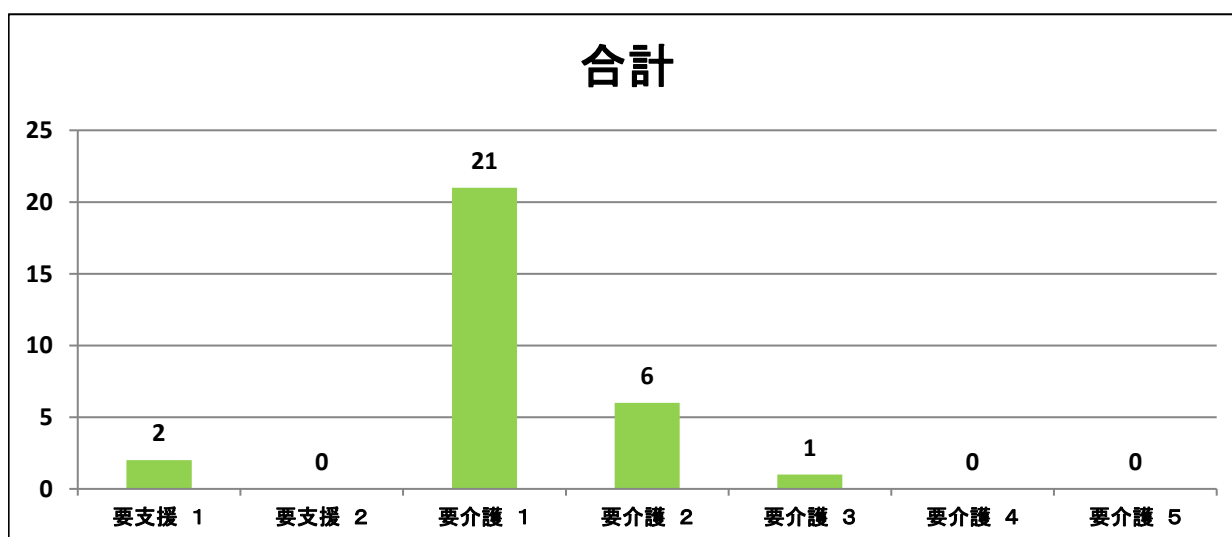
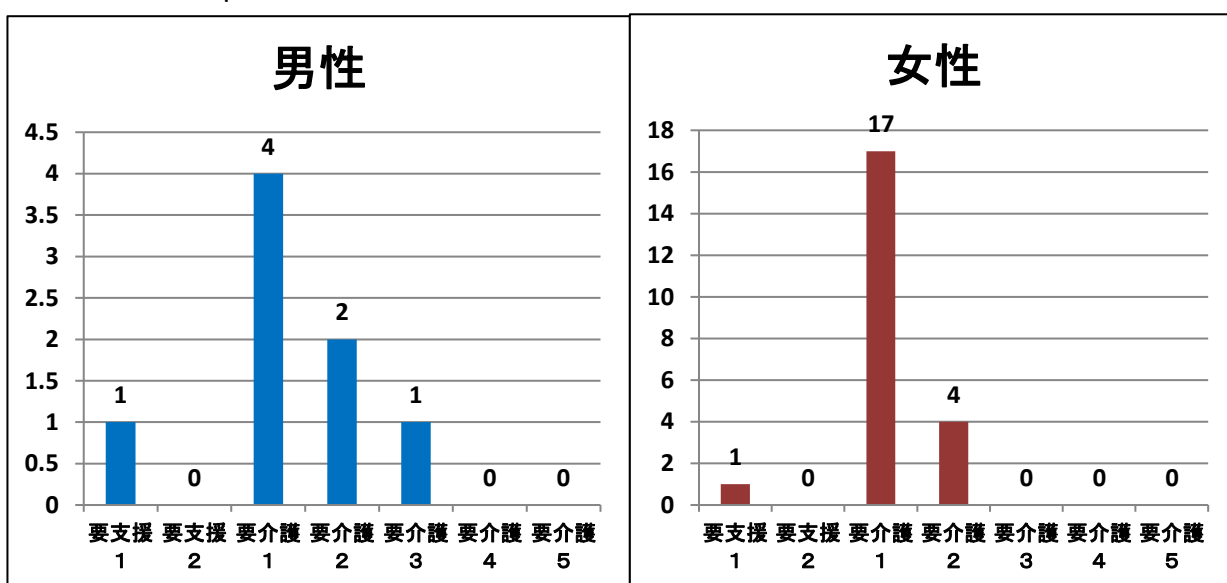
3. 入居期間別人員

	男性(名)	女性(名)	合計(名)	構成比(%)
1年未満	4	2	6	20.0
1年以上3年未満	3	14	17	56.7
3年以上5年未満	1	1	2	6.7
5年以上8年未満	0	2	2	6.7
8年以上10年未満	0	1	1	3.3
10年以上	0	2	2	6.7
合計	8	22	30	100
平均入居期間	1年4ヶ月	3年11ヶ月	全体	2年8ヶ月



4. 平均介護度別人員

	男性(名)	女性(名)	合計	
			人数(名)	構成比(%)
要支援 1	1	1	2	6.7%
要支援 2	0	0	0	0.0%
要介護 1	4	17	21	70.0%
要介護 2	2	4	6	20.0%
要介護 3	1	0	1	3.3%
要介護 4	0	0	0	0.0%
要介護 5	0	0	0	0.0%
合計	8	22	30	100.0%
平均介護度	1.44	1.16	1.3	



5. 面会状況(令和2年4月1日 ~ 令和3年3月31日迄の1年間)

総数	0人
1か月平均	0人/月
最高(1人あたり)	0回/年
最低(1人あたり)	0回/年
年間1人平均	0人
1か月1人平均	0人

6. 研修実施状況

【内部研修】

実施月	研修内容	研修講師	出席者数(名)
4月	接遇とコミュニケーションについて	介護職員	15
	法令遵守と個人情報保護について	介護職員	
5月	食中毒の予防と対策について	介護職員	18
6月	事故防止について	介護職員	17
7月	身体拘束に繋がる不適切ケアについて	介護職員	18
8月	災害及び防犯対策について	介護職員	18
9月	介護技術(入浴介助)について	介護職員	17
10月	感染予防と対策について	介護職員	19
11月	身体拘束と高齢者虐待について	介護職員	18
12月	機能訓練とレクリエーションについて	介護職員	18
1月	認知症への理解・職員の振る舞いについて	介護職員	17
2月	ケアプランと介護記録について	介護支援専門員	15
3月	事故防止について	介護職員	18
	令和3年度事業計画について	介護職員	

【外部研修】

実施月	研修種類	研修内容	出席者職種
9月	講義	外国人技能実習制度について	介護職員
11月	講義・演習	新型コロナウイルス対策実技研修	介護職員
1月	講義	実践に繋がる！必要とされる人材へのアプローチ	介護職員
2月	講義	外国人技能実習生 技能実習指導講習	介護職員
2月	講義	外国人技能実習生 生活指導員講習	介護職員
3月	講義	高齢者福祉施設救急手引き	介護職員

7. 食事

【栄養所要量】

区分	1人1日当たり給与栄養量	1人1日当たり荷重平均所要量
エネルギー	1473kcal	1578kcal
たんぱく質	49.4g	52.2g
脂質	33.8g	42.2g
カルシウム	654mg	660mg
鉄	8.6mg	6.2g
レチノール当量	550mg	683mg
ビタミンB1	1.09mg	0.85mg
ビタミンB2	1.02mg	0.95mg
ビタミンC	105mg	100mg

【献立例】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
赤飯	山菜おろしそば	香味おろしとんかつ	デミソースハンバーグ	冷やし肉うどん	ぶりの生姜焼き
お花見うどん	カレイの照り焼き	赤魚の粕漬け焼き	鶏唐揚げ	夏野菜の豚しゃぶ	あじ柚子風味焼き
ちらし寿司	中華丼	ちらし寿司	玉子コロッケ	梅おろしとんかつ	照り焼きチーズハンバーグ
牛丼	ビーフシチュー	肉味噌丼	豚しゃぶしゃぶ	肉じゃが	塩ダレチキン
ビーフカレー	チキンピカタ	ソース焼きそば	夏野菜キーマカレー	チキンカレー	蒸し鶏と野菜の胡麻風味
ポークソテー甘辛ソース	春雨と豚肉の甘辛炒め	菜味たっぷりかけ蕎麦	黄金カレイの煮つけ	冷やし中華	ぶっかけきしめん

10月	11月	12月	1月	2月	3月
豚の生姜焼き	きつね&たぬき蕎麦	年越しそば	おせち	さわらの塩焼き	しらす入りちらし寿司
パンプキンシチュー	味噌カツ	ドライカレー	年明けうどん	照りタル丼	金沢名物 ハントンライス
チキンのBBQソース	ごぼうの炊き込みご飯	豚丼	きしめんの卵とじ風	けんちんきしめん	スパゲティミートソース
カレーうどん	菜の花ちらし	照り焼きチキン	けんちんそば風	ぶりの生姜焼き	スタミナチャーハン
きつね蕎麦	おでん	なめこうどん	わかめうどん	サムゲタン風	メンチカツ
ミートローフ	ふわふわ玉子のオムライス	メバルの旨煮	ぶりの生姜焼き	親子丼	筍のきんぴら

8. 行事・クラブ活動及びボランティア受入れ実施状況表

【行事・クラブ活動】

実施月	指導援助者	内容	参加者数(名)
4月	介護職員	カラオケ、誕生会、絵手紙、習字、つぼマッサージ	合計143名
5月	介護職員	カラオケ、お楽しみレクリエーション、菖蒲湯、おやつイベント(たこやき)、絵手紙、習字、つぼマッサージ	合計237名
6月	介護職員	カラオケ、お楽しみレクリエーション、おやつイベント(フルーチェ作り)、絵手紙、習字、つぼマッサージ、映画鑑賞会、誕生会、父の日・母の日	合計231名
7月	介護職員	カラオケ、買い物、お楽しみレクリエーション、誕生会、おやつイベント(ベビーカステラ)、絵手紙、習字、つぼマッサージ	合計178名
8月	介護職員	カラオケ、買い物、お楽しみレクリエーション、そうめん流し、誕生会、おやつイベント(餅どら焼き)、絵手紙、習字、つぼマッサージ、盆踊り(グループホーム・ボランティア)	合計254名
9月	介護職員	カラオケ、買い物、お楽しみレクリエーション、誕生会、おやつイベント(スイカ割り)、絵手紙、習字、つぼマッサージ、秋祭り(グループホーム・ボランティア)	合計248名
10月	介護職員	カラオケ、買い物、お楽しみレクリエーション、誕生会、おやつイベント(大学芋)、絵手紙、習字、つぼマッサージ、運動会、	合計228名
11月	介護職員	カラオケ、買い物、お楽しみレクリエーション、誕生会、おやつイベント(白玉団子)、絵手紙、習字、文化祭、つぼマッサージ、ドライブ(紅葉)	合計221名
12月	介護職員	カラオケ、柚子湯、おやつイベント(芋餅)、誕生会、クリスマス、絵手紙、習字、つぼマッサージ	合計208名
1月	介護職員	カラオケ、お楽しみレクリエーション、お正月レクリエーション、おやつイベント(お茶会)、誕生会、新年会、絵手紙、習字、つぼマッサージ	合計264名
2月	介護職員	カラオケ、お楽しみレクリエーション、節分レクリエーション、おやつイベント(きな粉餅)、誕生会、絵手紙、習字、つぼマッサージ	合計203名
3月	介護職員	カラオケ、お楽しみレクリエーション、誕生会、おやつイベント(抹茶マフィン)、絵手紙、習字、つぼマッサージ、ドライブ(お花見)	合計172名

【地域交流・ボランティア受入れ状況】

実施月	団体名	内容	参加者数(名)
不定期	亀天鍼灸院	施術(鍼灸)を行う	毎月2~3名
2回/月	〃	つぼマッサージ	30名
8月	夏祭り	盆踊り、カラオケ大会、軽食	ご利用者27名 地域の方 18名 ボランティア6名
9月	秋祭り	敬老会の催し、クイズ大会、軽食	ご利用者30名 地域の方18名 ボランティア6名

【苦情状況】

日付	法人との関係	内容
令和2年度		特になし

